

科目ナンバリングコード	Khu2313101	授業科目名	日本思想史 L(人文学科)		
担当教員名	岩本 真一				
履修可能開始学年	2年	単位数	2.0単位	授業区分	週間授業
開講年度	2026年度	開講学期	2026年度4Q	開講曜日・講時	火曜3限、木曜3限
主要授業科目		クオーター開講科目		セメスター開講科目	

科目分類	専門選択科目	抽選科目		教室	
授業形態種別	講義	授業実施形態	対面授業		
相関するDP(カリキュラム年度2017-2020)					
相関するDP(カリキュラム年度2021-)	DP-1 知識と理解	DP-2 創造的思考と考察	DP-3 技術と表現	DP-4 他者理解と協働	DP-5 社会への関心と行動
相関の有無	●	●			●

科目ナンバリングの説明ページへのリンク	https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/numbering.html	ディプロマポリシー(DP)の説明ページへのリンク	https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/matrix.html
---------------------	---	--------------------------	---

サブタイトル
日本ファシズムと民衆
授業の目的・到達目標
(1)日本を主題に展開した思想を通じて自他の文化を多元的に捉えるための専門的な知識を習得できる。 (2)日本の思想史に関する専門的な知識を体系的に理解し、実社会と結びつけながら自らの問い合わせ立てることができる。 (3)自分で立てた問い合わせ日本思想史に関する専門的な知識にもとづいて分析・考察できる。
授業の概要

本講義では、「日本ファシズム」の思想について考察する。日本は古来より「健康的」な社会であり、昭和前期のいわゆるファシズム期だけが特殊な時代であったとする認識が、かねてより広く知られている。しかし、冷静に考えればわかるように、そのどちらもが同じ日本社会に他ならない。とするならば、ファシズム期という時代は、むしろ日本社会の本質が最も典型的に、極端な形で顕現した時代であると考えることも可能である。以上のような認識を元に、近代日本の思想を再考してみたい。
基本的には講義形式で行なうが、毎回、授業後に記入してもらうコメント・シートへ翌週の冒頭に返答することで双方向性を確保したい。

実務経験／実践的教育

授業計画
予定としては以下のとおりだが、変更することもあり得る。
第1回：ガイダンスーなぜファシズムについて考えるのか
第2回：日本ファシズムの時代区分
第3回：家族国家観と日本ファシズム
第4回：昭和恐慌とファシズムの基盤
第5回：日本ファシズムと農山漁村更正運動
第6回：軍部のファシズム化①——血盟団事件
第7回：軍部のファシズム化②——五・一五事件
第8回：軍部のファシズム化③——二・二六事件
第9回：革新官僚と日本ファシズム
第10回：日本ファシズムの担い手
第11回：ファシズムと異質性の排除
第12回：日本ファシズムの精神構造
第13回：まとめ——草の根のファシズム
第14回：到達確認

授業外学習の指示（予習・復習・課題等）

単位制度の趣旨に則り、次に示す授業外学習(自学自習)時間が必要です。【1単位につき週あたりに必要な自学自習時間】 クォーター科目：講義・演習 4.時間、外国語・実習 2.5時間／セメスター科目：講義・演習 2.25時間、外国語・実習 週1.25時間 ※2単位科目の場合は上記を二倍、3単位科目は三倍してください。また、演習科目はカリキュラム年度によって授業時間と自学自習時間の配分が異なりますので、シラバスや科目担当者の授業内での指示に従ってください。この科目では授業外学習として、以下の内容に取り組んでください。

単位制度の趣旨に則り、この授業では1回の授業につき4.5時間の授業外学習が必要になる。この授業における授業外学習の内容と時間数は以下のとおり。
予習：シラバスに基づき、関連するキーワードについて、書籍・事典・インターネット等で授業前に調べておくこと（1.5時間）。
復習：授業で配布されたレジュメや資料をもとに、授業での説明を踏まえながら全体を自身でまとめ直すこと（3時間）。

評価方法・評価基準

授業参加度（50%）と期末試験（50%）により評価する。

履修条件・留意点及び受講生に対する要望

たんに講義を受動的に聴くだけでなく、つねに自分の頭で考えながら、自分たちの生活している社会の問題と関わらせて主体的に聞いて欲しい。

購入必須テキスト

参考文献・作品等

講義のなかでその都度、紹介する。

参考WEBサイト（サイト名・URL）